

令和4年度 六郷小学校学校評価(後期) 結果・成果・課題・改善方法及び学校関係者の意見

項目			主な具体策	評価の観点	評価目標指数(A+B=80%以上) ○:80%以上 ▲:80%未満										A:とても思う B:だいたい思う C:あまり思わない D:思わない										学校関係者評価委員会 (課題事項について)
					保護者		児童		教職員		保護者		児童		教職員		保護者		児童		教職員				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
1	自分で考えたり 誰かな学力)	○主体的・対協的な学びの充実 ○問題解決学習の推進 ○思考力の向上 ○学習習慣の定着 ○学習や生活に基本となる 学力の向上 【数値目標】 1)7年ぶりに主体的である。 80% 2)学年×10分×10分の家庭学習に取り組み児童の割合 80% 3)漢字力・計算力テスト合格者 80%	学習に向かう態度について ※ 学年ごとに対して教員の主体的である。 ※ 自分から進んでみんなと一緒に学習に取り組んでいる。 ○学習習慣の定着 ○学習や生活に基本となる学力の向上 【数値目標】 1)7年ぶりに主体的である。 80% 2)学年×10分×10分の家庭学習に取り組み児童の割合 80% 3)漢字力・計算力テスト合格者 80%	71.8%	▲	71.0%	▲	94.0%	○	76.0%	▲	85.7%	○	100.0%	○	100.0%	○	100.0%	○	100.0%	○	100.0%	○	○児童が主体的・対協的な学習ができる授業作りにつながっている。]について教員は、前回に比べて14.3%増、100%活用している。主体的・対協的な学びの充実を図ろうと日頃の授業で実践してきていることが分かる。 ▲授業が小集団での共同学習から、個人が自ら取り組むスタイルに進化したために、自力でできない児童の数が下がったことと考える。個人への指導・指導を受ける必要がある。 ○1人1台端末の活用については、保護者が5.3%より、タブレットのルールを決めて学習や生活に活用されていることが分かる。 ▲1人1台端末の活用に関しては、教員が83.9%と前回より16.7%低くなった。児童の活用が多義になり、教員の1人1台端末の活用力に差があるため、苦手な教員の活用が下がったためと考える。 ▲学習習慣の定着については、特に児童が74.7%と前回より下り、決めた時間の学習ができていない児童が多いことが分かる。 ▲漢字力・計算力テストについては、保護者・児童共に前回より有意義に取り組みていないと捉えていることが分かる。本校の数値目標合格者80%以上に対して、漢字力テスト達成率が64.9%、計算力テスト達成率71.7%であった。どちらのテストも70%に達していないので、普段の地道な練習を児童が継続してできるような指導の工夫を講じていきたい。特に、計算に関しては、その児童がどう考えようのかを教員がきちんと分析し、正しい計算技能を身に付けられるようしていきたい。 ※学習意欲については、児童が主体的・対協的な授業づくりに向けて課題解決学習や体験的な学習など、児童が自らに挑戦・関心を高めるような指導が必要である。 ※1人1台端末(タブレット)に関しては、効果的な活用をしてくれるように引き続き指導の充実を図るために、教員のスキルアップを図っていかなければならない。 ※漢字力・計算力テストは、確実な定着を図るために、引き続き補充指導を行っていく。 ※家庭学習については、その日の授業で学習した内容を再度復習するなどの具体的指導、学力の向上につなげていく必要がある。	
2	すなおな子(誰かな学力)	○思いやりや感謝の心をもち育ち ○感謝する態度の育成 ○読書や読書の楽しさの育成 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 年間35冊以上 3)読書の読書の読書 80%	思いやりや感謝の心をもち育ち 育ち ○感謝する態度の育成 ○読書や読書の楽しさの育成 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 年間35冊以上 3)読書の読書の読書 80%																				すなおな子(誰かな学力)における「読書」については保護者、児童ともに回答率が低かったが、タブレットPCを活用することで中学年以上の児童が図書室を利用して調べ学習をすることが減ってしまったことも原因の一つであると考える。読書はやはり低学年の?から家庭での読書習慣、読書の習慣を付けていくことが一環であるのではないかと。		
3	元気な明るい子(誰かな学力)	○自分から進んであきらめない ○読書の読書の読書 80%	自分から進んであきらめない ○読書の読書の読書 80%																				☆元気な明るい子(誰かな学力)の「体力の向上」に関しては、コロナ禍のため、運動量が減り、感染症予防を講じたから体力向上が期待できない。十分な運動量が確保することが十分ではないと考える。体力テストの「投力」に関しては、「投力」を高めるための運動を計画的に進めていくことが大切ではないかと。		
4	よく動く子(コロナウイルスに 対応できる力)	○自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%	自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%																				○自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%		
5	特別支援教育の推進	○自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%	自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%																				○自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%		
6	安全安心な学校づくりについて	○自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%	自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%																				○自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%		
7	開かれた学校づくりについて	○自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%	自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%																				○自分から進んで動き、協力し、思いやり 【数値目標】 1)自分(あたり)とやぐもんない児童の割合 80% 2)読書の読書の読書 80%		

保護者回答率 75% 内訳:1年生(83.6%-7/11人) 2年生(92.3%-12/13人) 3年生(57.8%-11/19人) 4年生(72.7%-13/18人) 5年生(100%-13/13人) 6年生(72.2%-13/18人)